

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校
1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 組織力向上と働き方改革の推進 (1) 組織的な学校運営と教職員の資質・能力の向上 ア 分掌や委員会などの各組織が、所管の業務について成果と課題を検証しながら業務の見直しを行う。 イ 組織間の連絡・調整を密にし、組織を横断する課題に連携して取り組む。 ウ 教職員に対する研修を充実させる。 (2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づいた働き方改革の推進 ア 長時間勤務の是正や休暇取得の促進など働き方改革を推進する。
2 生徒層の変化に対応する教育システムの確立 (1) アクションプランを踏まえた学校改革の実施 ア 生徒がより学習しやすい通信教育システムの検討・実施・検証・改善を行う。 ※ 令和 10 年度には卒業予定生の卒業率 75%以上をめざす。 (R 5 70% R 6 73% R 7 72.4%)
3 「確かな学力」と「豊かな心」の育成 (1) 「確かな学力」の育成 ア 「確かな学力」が身につき、かつ生徒が自力で取り組めるレポートを作成・支援する。 イ レポートの理解を深めたり、対面ならではの学習を伴うスクーリングを検討・実施する。 (2) 「豊かな心」の育成 ア 互いに認め合うことができるよう人権教育を充実させる。 イ 社会性を身に付けることができるよう特別活動を充実させる。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「レポートは教科書を見るなどして、自分の力で完成できる内容になっている」の肯定的評価 90%以上を維持する。 (R 5 92% R 6 93% R 7 95.2%)
4 安全安心な学校づくり (1) 相談・支援体制の充実 ア 生徒が安心して学校生活を送れるよう相談体制を充実させる。 イ 個々の状況に即した支援ができるよう支援体制を充実させる。 (2) 防犯・防災体制の充実 ア 生徒の安全を確保できるよう防犯対策を充実させる。 イ 緊急事態に迅速に対処できるよう危機管理体制を確立する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して学校生活が送れている。」の肯定的評価を令和 10 年度には 95%をめざす。 (R 5 90% R 6 88% R 7 88.8%)
5 進路指導の充実 (1) 卒業後を見据えたキャリア教育の充実 ア 卒業後の生き方について考える機会を充実させる。 イ 就職指導を充実させる。 ウ 進学指導を充実させる。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を令和 10 年度には 80%をめざす。 (R 5 72% R 6 73% R 7 75.8%)
6 情報発信の充実 (1) 生徒・保護者への情報発信の充実 ア 学校の情報がより伝わるよう学校 HP、郵送物、学習支援クラウドサービス、保護者連絡サービスなどのツールを使い分け、情報発信を充実させる。 (2) 広報活動の充実 ア 本校の教育システムの特徴がより伝わるよう学校 HP を充実させる。 イ 本校の教育システムの特徴がより伝わるよう学校説明会を充実させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R7年度値〕	自己評価
1 組織力向上と働き方改革の推進	（１）組織的な学校運営と教職員の資質・能力の向上 ア 分掌や委員会などの各組織が、所管の業務について成果と課題を検証しながら業務の見直しを行う。 イ 組織間の連絡・調整を密にし、組織を横断する課題に連携して取り組む。 ウ 教職員に対する研修を充実させる。 （２）大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づいた働き方改革の推進 ア 長時間勤務の是正や休暇取得の促進など働き方改革を推進する。	（１） ア・所管の業務や担当行事の振り返りを絶えず行い、組織的な改善につなげる。 イ・組織を横断する課題については、運営会議で検討したうえで、協力して対応する。 ウ・通信制教育への理解を深めるための新着任者を対象とした研修や人権研修等を計画的に実施する。 （２） ア・ゆとり週間等の取組を通じて、長時間勤務の是正や休暇を取得しやすい環境を整備する。	（１） ア・教職員向け学校教育自己診断における「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的評価を向上させる。 [64.5%] イ・教職員向け学校教育自己診断における「業務全般について、教職員が協力して取り組んでいる。」の肯定的評価を75%以上とする。[新規] ウ・教職員向け学校教育自己診断における「初任者等、経験の少ない教職員を組織的に育成する体制が取られている。」の肯定的評価を60%以上とする。[新規] （２） ア・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。[0名] ・年次有給休暇の年間平均取得日数を16日以上にする。[16.0日]	
2 生徒層の変化に対応する教育システムの確立	（１）アクションプランを踏まえた学校改革の実施 ア 生徒がより学習しやすい通信教育システムの検討・実施・検証・改善を行う。	（１） ア・2学期制やAMスクーリング等令和8年度から実施する教育システムについて、検証する。 ・秋季選抜入学者に対応する教育課程やくくり募集への変更に伴う対応について検討する。	（１） ア・卒業予定生の卒業率を向上させる。[72.4%] ・生徒向け学校教育自己診断における「計画的にスクーリングに出席することができた。」の肯定的評価を75%以上にする。[新規]	
3 「確かな学力」と「豊かな心」の育成	（１）「確かな学力」の育成 ア 「確かな学力」が身につき、かつ生徒が自力で取り組めるレポートを作成・支援する。 イ レポートの理解を深めたり、対面ならではの学習を伴うスクーリングを検討・実施する。 （２）「豊かな心」の育成 ア 互いに認め合うことができるよう人権教育を充実させる。 イ 社会性を身に付けることができるよう特別活動を充実させる。	（１） ア・授業研究委員会を新設し、生徒の自力学習を支えるICT等を活用した仕組みについて研究する。 イ・授業研究委員会を新設し、スクーリングの在り方やICT等を活用した工夫について研究する。 （２） ア・3年間を見通した人権教育計画のもと、人権教育HRを年間2回以上実施する。 イ・特別活動の在り方を常に見直し、生徒の主体的な活動を充実させる。	（１） ア・生徒向け学校教育自己診断における「レポートは教科書を見るなどし、自分の力で完成できる内容になっている。」の肯定的評価を90%以上とする。[95.2%] イ・生徒向け学校教育自己診断における「スクーリングの内容はわかりやすく、学習の助けになっている。」の肯定的評価を90%以上とする。 [95.8%] （２） ア・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的評価を昨年度並みとする。[82.8%] イ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校行事は楽しく参加できるように、工夫されている。」の肯定的評価を向上させる。[85.4%]	

府立桃谷高等学校 通信制の課程

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
4 安全安心な学校づくり	(1) 相談・支援体制の充実 ア 生徒が安心して学校生活を送れるよう相談体制を充実させる。	(1) ア・校内や校外の相談窓口について十分周知する。 ・SC や SSW へ相談しやすいようオンラインフォームを活用した仕組みを整える。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「気軽に、質問や相談をすることができる先生がいる。」の肯定的評価を向上させる。[63.4%]	
	イ 個々の状況に即した支援ができるよう支援体制を充実させる。	イ・生徒の情報を共有する場として、生徒情報交換会を開催する。 ・支援委員会を定期に開催し、支援を必要とする生徒への支援方法について検討する。 ・必要な生徒に対してケース会議を開催したり、「個別の教育支援計画」を作成する。	ア・イ ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている。」の肯定的評価を向上させる。[88.8%]	
	(2) 防犯・防災体制の充実 ア 生徒の安全を確保できるよう防犯対策を充実させる。 イ 緊急事態に迅速に対処できるよう危機管理体制を確立する。	(2) ア・登下校時の声掛けや校内巡回、校内点検を効果的に実施する。 イ・年度当初に緊急事態の対応について確認を行うことで、緊急事態に迅速に対処できるようにする。 ・災害に対応できるよう、避難訓練を実施する。	(2) ア・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている。」の肯定的評価を向上させる。[88.8%] イ・教職員向け学校教育自己診断の質問項目の「災害や突発的な事件、事故等に対して組織的に迅速かつ適切な対処ができるようになっている。」の肯定的評価を向上させる。[53.3%]	
5 進路指導の充実	(1) 卒業後を見据えたキャリア教育の充実 ア 卒業後の生き方について考える機会を充実させる。	(1) ア・「総合的な探究の時間」等を用い、卒業後の生き方について考える機会を充実させるとともに、進路希望調査を活用し、個々に応じた進路相談を充実させる。 ・進路だより等により、進路に関する情報を定期的に発信する。	ア・イ・ウ ・生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を向上させる。[75.8%] ・保護者向け学校教育自己診断の「学校は、子どもに将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」の肯定的評価を向上させる。[80.4%] ・就職希望者内定率 90%以上を維持する。[100%]	
6 情報発信の充実	イ 就職指導を充実させる。	イ・就職希望者対象説明会や保護者向け説明会を実施する。 ・CC と連携し、就職試験受験者への指導を充実させる。		
	ウ 進学指導を充実させる。	ウ・進学希望者対象説明会や保護者向け説明会を実施する。		
	(2) 広報活動の充実 ア 本校の教育システムの特徴がより伝わるよう学校 HP を充実させる。 イ 本校の教育システムの特徴がより伝わるよう学校説明会を充実させる。	(2) ア・学校 HP に本校の魅力や特徴、教育システムがより伝わる動画や説明スライド等を掲載する。 イ・生徒・保護者対象の学校説明会や中学・高校教員対象の説明会を充実させる。	(2) ア・イ ・説明会終了後アンケートにおいて、「通信制の学習システム（レポート、スクーリング、テスト）の説明は理解できた。」の肯定的評価を 80%以上とする。[新規]	
	ア 学校の情報がより伝わるよう学校 HP、郵送物、学習支援クラウドサービス、保護者連絡サービスなどのツールを使い分け、情報発信を充実させる。	ア・学校 HP、郵送物、学習支援クラウドサービス、保護者連絡サービスなどを活用し、教科や分掌からの連絡等を効果的に発信するなど情報提供を充実させる。	ア・生徒向け学校教育自己診断「学校のホームページはわかりやすい。」の肯定的評価を向上させる。[79.3%] ・保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について提供（ホームページ、郵送物等）の努力をしている。」の肯定的評価を向上させる。[88%]	